



KUSE 癪

かじきのしんじ

須我神社の鹿食之神事

雲南市
【時期】9月27日

鹿と為す。

例大祭の前夜祭、神楽殿で行われる、国家安泰や五穀豊穡を祈願する歴史ある神事。かつては神饌として鹿の頭が供えられていたが、さすがに現代は難しい。そしてその代打となったのが、鹿の頭に見立てた「茄子」。少し鹿によせた切り込みなどが施されているものの、すごく茄子。もう少し鹿に近い質感のものもありそうだが、なぜか茄子。興味深い。



MATSURI 祭

みやざきようせんしき

宮座饗膳式とシツカク踊

大田市【時期】10月下旬の水上神社例大祭時

踊りの前に行く「宮座饗膳式」。膳や神酒が振る舞われると、氏子総代達が味などに対し悪態をつきはじめる。宮司も宮司で怒ることなく、のらりくらりと言い訳をするのみ。「おもてなしに文句言うなんて失礼!」と思いきや、この悪態がひどければひどい程翌年が豊作になるといわれているそう。その後のシツカク踊では、鮮やかな衣装に身を包み、小太鼓やささらなどを手にした12人の踊り子が登場。ゆったりテンポの、芸能化されていない古式純朴な田楽にほっこり。島根県指定無形民俗文化財。



もっともっと、悪態をください!

かねこぼらの 鹿子原の虫送り踊り

むしおくりおどり

邑南町
【時期】7月20日

農村にとって、一番の敵。

鹿子原集落で200年以上続く伝統行事。虫送りの風習はかつて全国の農村に見られたが、現在は鹿子原のように古形を残すのは希少で、県指定無形民俗文化財になっている。独特の「虫送り唄」にあわせ、男たちが集落を行進。集落外れの川に藁人形を流す。この藁人形は「稲株で転んだせいで討たれ、稲を食い荒らす虫として生まれ変わった」という、逆恨みめ転生を果たした平家の武将・斎藤実盛を見立てたもの。



ぶしやさい 物部神社の奉射祭

鬼を射る! 分かりやすさこの上なし。

大田市

【時期】1月7日 午前9時

千年以上の歴史を持つと言われる祭事で、「鬼」と書かれた直径1mの的を射抜いて邪気を払い、1年間の無病息災を祈る魔除け神事。魔除けの儀式は全国津々浦々色々あれど「文字で鬼って書いて射る」は非常にシンプルで分かりやすい。神事の後には、近隣の中高生や一般参列者が参加して大弓道大会がスタート。参加者の直会にて七草粥のふるまいも。



御霊会風流

ごれえふりゅう

隠岐の島町
【時期】毎年6月5日の祭礼日

大迫力&走りにくそう。

最大の見どころは、隠岐中の神々が馬に乗って玉若酢命神社に集まったことに由来する「馬入れ神事」。島後の8つの地区から8頭の神馬が集まり、6人の馬付きと共に一気に駆け抜ける様は圧巻。見方によっては「馬に乗りたかったのにタイミングを逃して並走する人たち」にも見える。途中、新築や出産などの祝い事があった民家に寄ると、馬にはスイカやニンジンがふるまわれるらしい。隠岐三大祭の一つ。



かんから祭

松江市【時期】毎年5月4日

一生つづく東西対決。

平安時代中期に乱を起こし、美保関町雲津の地で平正盛に討ち取られた源義親の霊を慰めるために始まったとされる祭。川を境に地区を東(源義親)と西(平正盛)に分け、それぞれ山の中腹から鐘と太鼓を鳴らして「東の負けよ!」「西の負けよ!」と叫び合う。2つの山はちょうど声が届くくらいの距離にあり、それぞれの陣地でお酒を飲んだりお弁当を食べたりしつつ、少し照れながら叫ぶのが◎



平田天満宮祭奉納 平田一式飾り

出雲市【時期】毎年7月20日~23日(平田天満宮の夏祭り)

すごい技なのに、なんでこんなにおもしろい。

出雲市平田町といえはの「平田一式飾り」。陶器や仏具、自転車の部品などの生活用品を「一式一種類」使って、キャラ物から歴史上の人物、時事ネタなど様々な題材を表現する、出雲市無形民俗文化財。平田天満宮の夏祭りに、町内・団体対抗で技巧やアイデアを競い合う。たくさんの作品を見ているうちに、日常的に「この箸置き関節に使えそう」などの一式飾りの視点が培われてくる。



※写真は平田はんまち一式飾り展示館の展示

火舟祭り

邑南町
【時期】7月

人々に愛される
歴史的公認女装舟。

ちょうちんで飾られた、全長約15mの巨大な舟形の屋台が町をまわる、邑南町矢上地域の初夏の風物詩。舟には女装した青年たちがご神体の護衛役として乗り込むのが習わし。矢上の姫が管弦祭に招待された時、乗船した男衆が女装で警護に当たったことから由来している。



山中のお改めとシン狩り行事

やまなかのおあらため

この世で一番平和な狩り。

江津市【時期】4月の第2日曜日



「お改め」は米の出来を占う儀式、「シン狩り」は狩猟の儀礼で、稲作と狩猟の儀礼が同時に行われるところが珍しい。「お改め」では米に息がかからぬよう口に櫛を咥えて米質チェック。「シン狩り」では害獣に見立てた二つ重ねの団子(シン団子)に矢を放つことで「害獣から田畑が守られた」ことを意味するという。団子に至近距離から矢を射る様子がとってもシュール。県内でもほぼみられなくなった貴重な行事。

菱浦十日恵比須の大祭

海士町
【時期】4年に1度1月初旬

島民総出の、祭ンピック。

大漁祈願や商売繁盛を願い4年に1回開催される。笛や太鼓を響かせながら、道中神樂がお神輿と一緒に菱浦地区を練り歩く。女装の身重のお多福、シマメ(旬のケンサキイカ)、タコなどキャラ濃いめのご一行は子どもたちにも大人気。地区をぐるっとまわった後はお神輿を船に乗せて菱浦湾を3周し、恵比須神社に神輿が納められてフィニッシュ。地域が一丸となって作り上げるお祭りだ。

